

福島第一原子力発電所事故関連 Q & A集 Ver1差し替え(最終)
〈簡略版〉

(一般からの問い合わせに対して、各府省が回答する際の参考資料)

〈基本情報〉

- 問1 個人の対応はどのようにしたらよいですか? . . . 1
問2 テレビで「〇〇県が危ない」と報道されていたのですが、
どうすればよいですか?
問3 〇〇県にいますが、逃げる必要がありますか?
問4 健康被害が心配です、大丈夫ですか? . . . 2
問5 妊婦ですが、一般の方と比べ健康面で大丈夫ですか?

〈対応措置等〉

- 問6 屋内退避中ですが、どのような点に留意したらよいですか?
問7 屋内退避中ですが、やむを得ず外出する場合はどのような
点に留意したら良いですか? . . . 3
問8 ヨウ素剤を飲めば良いと聞いたのですが?
問9 ヨードチンキやうがい薬を飲めばヨウ素剤の代わりになるのですか?

〈生活情報等〉

- 問10 水や農産物は大丈夫ですか? . . . 4
問11 外出しても大丈夫ですか?
問12 雨に放射能は含まれているのですか?
問13 洗濯物を外に干しても大丈夫ですか?
問14 メール等で送付されてくる情報に信憑性はあるのでしょうか? 5
問15 放射性物質はどのように拡散するのですか?
問16 放射線はどこで観測されているのですか?
問17 海水は、原子力災害により汚染されないのですか? . . . 6
問18 海水が汚染した場合、海流により広範囲に拡散することになると
思われますが、その危険度と注意事項を教えてください?

問1 個人の対応はどのようにしたらよいですか

(答)

- ・放射線は自然界にあるものであり、被ばくも微量であれば直ちに健康等に特段の問題はありません。
- ・避難区域内に住んでおられた方でも、早めに区域外に避難されているので、健康への影響を心配する必要はありません。
- ・避難等については、テレビ、ラジオ、広報スピーカーなどさまざまな方法で連絡をしますので、注意して聞いていただき、指示に従ってください。

(参考) 放射線の被ばく量 (出典 国連科学委員会、放射線医学総合研究所ほか)

世界平均1人当たりの自然放射線 (年間)	2.4ミリシーベルト *1
胸のX線集団検診 (1回)	0.05ミリシーベルト
東京・ニューヨークの航空機旅行 (往復)	0.19ミリシーベルト
胃のX線集団検診 (1回)	0.6ミリシーベルト
胸部X線コンピュータ断層撮影検査 (CTスキャン) (1回)	6.9ミリシーベルト

*1:シーベルト (Sv) : 人体に放射線を受けた場合、生物学的にどのような影響があるかを示すための単位。ミリは、千分の一の補助単位です。
(1ミリシーベルト=1,000マイクロシーベルト)

問2 テレビで「〇〇県が危ない」と報道されていたのですが、どうすればよいですか?

(答)

- ・テレビ・ラジオや市町村等の行政機関からの情報をよく聞いてください。
- ・貴方がいる場所について、避難や屋内退避が求められている場合には、その指示に従って行動してください。
- ・それ以外の場所にいる場合には、引き続き、情報の入手に努め、指示がある際には、これに従ってください。

問3 〇〇県にいますので、逃げる必要がありますか?

(答)

- ・避難や屋内退避が求められている場合には、その指示に従ってください。
- ・それ以外の地域の方は、基本的に平常通りの生活がかまいません。
- ・テレビ・ラジオや市町村等行政機関からの情報によく注意してください。

問4 健康被害が心配です、大丈夫ですか？

(答)

- 放射線に被ばくした場合の影響は、放射線の種類と量に影響しますが、100 ミシーベルト (=100,000 マイクロシーベルト) 以下では、直ちに健康に影響を及ぼすことはありません。

問5 妊婦ですが、一般の方と比べ健康面で大丈夫ですか？

(答)

- 胎児への放射線の影響は、成人の方とは異なる点もありますが、この点も考慮した上で避難や屋内退避の指示等が行われますので、妊婦の方におかれましても、市町村等行政機関の指示などに従ってください。
- 医学ガイドラインによると、妊娠10週までは、50mGy未滿、妊娠10週～27週までは、100mGy未滿であれば、奇形発生率は増加しないとされています。(1Gy=1Sv: X線又はγ線の被ばくの場合)

問6 屋内退避中ですが、どのような点に留意したらよいですか？

(答)

- 屋内に入ること、放射性ヨウ素の吸入や屋外の放射線、放射線を出すチリ・ガスからの影響を軽減することができます。以下の点に留意して、屋内退避をしてください。
 - > ドアや窓を閉め、できるだけ外出は避ける。外出する場合は、タオルや木綿のハンカチを折って、水で濡らして固くしぼり、口や鼻をおおってください。
 - > 換気扇は停止する
 - > 洗濯物等干し物は、屋内で干す。また、屋外で干していたものは、ビニール袋に入れて保管する
- 適宜、テレビ・ラジオ等からの情報に注意してください。
- 天気予報の風向きに注意を払い、福島原子力発電所からみて風下になったときは、特に上記留意事項を守るよう努めてください。

問7 屋内退避中ですが、やむを得ず外出する場合はどのような点に留意したら良いですか？

(答)

- ・ やむを得ず外出する場合は、短時間にするとともに、以下の点に留意してください。
 - 移動は徒歩より、車が望ましい
 - マスクをする
 - 肌を露出しないように、長袖のものを着る
 - 雨に濡れないようにする
- ・ もし、雨に濡れた場合は、水道水で洗浄し、使ったタオル、濡れた衣服・靴等はビニールに入れて保管するなどしてください。

問8 安定ヨウ素剤を飲めば良いと聞いたのですが？

(答)

- ・ 相当量の放射性ヨウ素を体の中に取り込む可能性のある場合、あるいは取り込んでしまった場合には、甲状腺の障害を予防するために、安定ヨウ素剤を服用することは有効な場合があります。
- ・ 副作用を起こす場合もありますので、医療関係者の立合の下に服用することにしてください。
- ・ 放射性ヨウ素以外の放射性物質による内部被ばく、および外部被ばくには効果がありません。
- ・ 一般的に40歳を超えている場合は、安定ヨウ素剤を飲む必要はありません。
- ・ 子供に飲用する場合は、災害対策本部等にお聞きください。

問9 ヨードチンやうがい薬を飲めばヨウ素剤の代わりになるのですか？

(答)

- ・ ヨウ素の含有量が少ないばかりでなく、内服薬ではなくヨウ素以外の成分が体に有害な作用を及ぼすおそれもありますので、飲まないでください。

問 10 水や農産物は大丈夫ですか？**(答)**

- ・避難区域内の水や農産物については、福島県によれば、発電所周囲の避難区域からの農産物の出荷は可能な状態ではないと承知しているが、念のため摂取を控えて下さい。
- ・それ以外の地域のものについては、市町村等の行政機関から特段の指示がない限り、通常通りに生活していただいて構いません。

問 11 外出しても大丈夫ですか？**(答)**

- ・避難や屋内避難の対象区域外（福島第一原子力発電所から半径30km外の地域）においては、外出しても健康への影響を心配する必要はありません。
- ・避難等については、テレビ、ラジオ、広報スピーカーなどさまざまな方法で連絡をしますので、注意して聞いていただき、指示に従って下さい。

問 12 雨に放射性物質は含まれているのですか？**(答)**

- ・避難区域又は屋内退避区域その近くにおいて雨が降った際には、空気中の放射性物質が雨に含まれている可能性があります。
- ・できるだけ雨や雪のときには外出を控えてください。
- ・雨や雪が降っている場合は、雨具を使用して濡れないようにしてください。

問 13 洗濯物を外に干しても大丈夫ですか？**(答)**

- ・避難や屋内退避が求められている地域以外では、基本的に平常通りの生活で構いません。

問 14 メール等で送付されてくる情報に信憑性はあるのでしょうか？

(答)

- ・東北地方太平洋沖地震に関連して、チェーンメール*2、電子掲示板、ミニブログなどで、誤った情報が一部で流れています。
- ・報道や行政機関のウェブサイト等、信頼できる情報源で真偽を確かめ、これらの誤った情報に惑わされないように注意してください。
- ・なお、チェーンメール等を転送することは、いたずらに不安感をあおることにつながります。チェーンメールを受け取った時は、すみやかに削除して転送を止めてください。

*2:チェーンメールとは、転送を呼びかけ、次々と鎖のように連鎖していくメールのこと。

問 15 放射性物質はどのように拡散するのですか？

(答)

- ・気象条件にもよりますが、一般的には、風下に流れていきます。
- ・また、原子力施設から離れるほど、放射性物質が拡散し薄まり、放射線の量も少なくなる傾向があります。

問 16 放射線はどこで観測されているのですか？

(答)

- ・原子力施設周辺やさらに広い範囲において各地方公共団体、各原子力事業者等において放射線の量を測定するモニタリングを行っています。
- ・なお、通常時において、原子力施設周辺のモニタリングデータについては「環境防災Nネット」で、各地方公共団体、各事業者等のモニタリングデータについては、それぞれのHP等で公開しています。
- ・ただし、現在、地震の影響を受けた福島県、宮城県においては調整中となっております。
- ・また、文部科学省においても、全国のモニタリングの状況について、具体的なデータをホームページで公表しています。
- ・さらに、文部科学省は関係省等と協力して、モニタリングカーによる福島第一原子力発電所の20km以遠のモニタリング体制を構築し、その結果を随時、公開しています。

(参考) 環境防災Nネット : <http://www.bousai.ne.jp/vis/index.php>

問 17 海水は、原子力災害により汚染されないのですか？

(答)

- ・冷却等に使用している海水については、放射性雲（空気の塊）として排出された放射性物質により海表面が汚染されますが、大量の海水と海流により希釈拡散されます。

問 18 海水が汚染した場合、海流により広範囲に拡散することになると思われますが、その危険度と注意事項を教えてください？

(答)

- ・放射性物質は、大量の海水により希釈されるため、健康被害等を引き起こすようなことは、現段階では起きないものと考えています。



南相馬市福寿園の状況と対応について

保健院 ERCC 経路

● 保健院から福寿園に電話連絡
→ 接触

- 福寿園は特養老ホームであり
入園者：107名 (うち流動食 23名)
職員：13~15%

食料が減少してきているが、うすうすは...
施設自体は...

100人規模の特養入居者、特に流動食の対応が必要である
が23人にとり、福島第一原子力発電所から北に25km
離れた場所に存在すること、県から必要の物資・食料
を届けることができないと判断され、施設内に
留まりながら最善の対応を行う。

（福寿園側とは同意あり）
（物資提供あり）
現時点では

福寿園には、県の災対本部に連絡すれば、必要の支援
が受けられると伝達済であり、福寿園から 県の連絡先と対策、
具体的な支援内容を確認が予定。

△ 子 → 保健院

ERCC 経路 経路 正園子

11-03-17-02:37/004-001

保安院 ← 府防災関係 3/16 23:25

防災大臣の指示

・ NHKで南相馬市の

「福じゃえん」に入所者が

取り残されていると報道

厚労から 20~30分以内?

・ すぐ対応せよ!

報告は 28:00 まで

しるす 明朝 4時にして

大臣は 7:50 登庁予定

ERC 佐藤班 → 303 佐藤

ERC

官報 ← 官邸ワゴン

METL (A)

重要

防災大臣指示

3月16日 21:40

- 明日以降は捜索救助とともに、避難所における生活面のケアに相当の力を注ぐ。
- 避難所の状況をよく把握し、「何か起きたらこうする」ということを事前によくシュミレーションせよ。
近隣の公共施設や医療機関をよく調べておくこと。
- 医療や、高齢者・子ども・妊産婦など要援護者へのケアが重要。
厚労省が大きな役割を担う。
- 生じてくる様々な課題について、内閣府防災が各省に担当を割り振る。担当する各省が自己完結的に責任を持って処理すること。
チームを組んで、必要があれば政務クラスを入れて。
- 被災者だけではなく、自衛隊、警察、消防などの救助部隊にもPTSDが出るだろう。その対応も用意しなければならない。
- 阪神淡路大震災の際は、救出後に多くの方が亡くなっていることを踏まえ、同様の事態が再び起きることを防ぐ必要がある。

双葉病院の住民避難の状況について

- 14日、原子力災害対策本部より自衛隊に対して第1原子力発電所から20km以内に所在する双葉病院の患者等(96名)の避難要請あり。
- 東北方面衛生隊長が15日、救急車×5、大型バス×2、マイクバス×1等をもって双葉病院に前進し、被爆限界量に達するまで作業を実施。1130頃、47名を乗せて現場を離脱。
- じ後、部隊を交代し、12旅団4部総括班長が救急車×3をもって双葉病院に前進し、10名所在を確認。うち、医官によって2名の死亡を確認。再度、全病室を確認したが派遣要請数の残り39名の所在は確認されなかったため1400頃、8名を乗せて現場を離脱。合計55名を避難させた。

住民避難班
704の班
宮野 大尉

公明 井上義之 幹事長 3/15 15:00
↓ TEL 秘書 氏 ()

福島県広野町の 高野病院 に 封鎖
患者が残されている。(何人かは不明)

アクセス道路が広く 孤立している

連絡手段がないか。

20~30km のエリア

県会議員、中島せしろう氏から

15:00 直前に井上議員に連絡が来、その

県庁に連絡したか。通じない。

至急救出してほしい。



経路 () 統合へ連絡 ()

ERC ← 4172 高橋

OFC 住居班 才A様
ERC 住居班
詳細 TEL して

16:12 OFC 住居班 才A様 へ依頼済
20~30km 程度の広域で ERCP は対応。自衛隊も出動して

METI ERC

官邸リゼン → 対策本部

1枚

3月14日(月) 15:00
原子力災害対策本部

福島第1原子力発電所避難等について

○ 要救助者(原発から20km圏内)実態(現地対策本部及び警察庁 15:00 現在)

連番	施設名 (発電所からの 距離・方角)	住所	残留者	行き先
①	浪江西病院 (北東、8.5 km)	双葉郡浪江町権現堂下柳町6 ・自衛隊ヘリ等	75 施設も含む	福島医大
2	ドーナツ双葉 (西、3.9 km)	双葉郡大熊町熊新町369-1 ・自衛隊バス対応	100→0 (爆発前 に完了)	いわき光洋 高校
③	双葉病院 (西、4.0 km)	双葉郡大熊町新町176-1 ・自衛隊バス対応	80→0 (爆発前後 かは不明)	⑨7 いわき光洋 高校 → 906 ?
小計(10km圏内合計)			175	
④	オパール双葉 (北、11.2 km)	双葉郡浪江町末森八合田134 ・自衛隊バス対応:調整済 ・民間バス7台(警察官運転)	②80 (搬送中)	会津 楢原町 総合体育館
⑤	小高赤坂病院 (北東、18.3 km)	南相馬市小高片草珠父山24 ・自衛隊バス対応:要請済み	81	いわき光洋 高校
小計(10km~20km圏内合計)			361	
合計(20km圏内合計)			436	

あり
あり

①の150

→ 906
?

官邸 確保 リエヤ / あり

要救助者空輸要請に係る質問事項

- [Redacted]
- [Redacted]
- [Redacted]

- 活動できるための何らかの安全基準があるのか。
→ あり
- 寝たきりの患者を運ぶ際、同時に搭載しなければならない医療機器にはどのようなものがあるのか。(当庁ヘリ空輸が物理的に可能かを検討するため)
→ あり
- 患者の汚染状況は如何。
→ あり
- 患者を病院からヘリに搭乗させるまでの間、屋外においてヘリ乗組員を含め汚染の恐れはないか。
→ あり

福島県警 大島 様
 内南署
 福島県警 片寄

当面の活動に必要な資機材(予定数)	陸上自衛隊	海上自衛隊	消防	警察	海上保安庁	福島DMAT	計
タイベックスーツ	200	2,000	0	9,300	75	100	11,675
アノラック	200	2,000	0	9,300	75	100	11,675
マスク	30	2,000	0	300	75	200	2,605
ヨウ素吸収缶	120	8,000	0	1,200	300	800	10,420
布手袋	200	2,000	0	9,300	75	0	11,575
ゴム手袋	200	2,000	0	9,300	75	200	11,775
ホケット線量計	30	2,000	0	100	25	10	2,165
手垢用手袋	0	0	0	0	0	200	200
ガムテープ	0	0	0	0	0	200	200
手術帽	0	0	0	0	0	200	200
コーグル	0	0	0	0	0	200	200

※ ヨウ素吸収缶はマスク1個に対して2回の活動分を計上

合計 XCRカン 200 2,000 0 9,300 75 100 11,675

担当者

本件は 松村 様

加賀の 井上

3月13日現在 県本部に上記資機材が 600セットしかありません。

明日にも在庫切れと存子のため 本至急 県本部 (県自治会館)

に搬入していただければ手配願います。

金子 車電には 直接 おねがひ した

3月14日 14:45 再送しました。

担当 福島県災害対策本部 加藤 氏 とにかく手配して頂きたい!!

官邸対策室 (左才へ総括)

3月14日 (月) 05:30

第1 原発避難について

1 要救助者 (原発から 20km 圏内) 実態 (厚生労働省 05:00 現在)

連番	施設名	住所	残留者	行き先
1	双葉厚生病院	双葉郡双葉町新山久保前 100	0	
2	今村病院	双葉郡富岡町本岡関ノ前 243	0	
3	浪江西病院	双葉郡浪江町権現堂下柳町 6 (自衛隊バス対応: 調整済)	75	磐城光陽高校
4	トータル双葉	双葉郡大熊町熊新町 369-1 (自衛隊バス対応: 調整済)	100	調整中
5	双葉病院	双葉郡大熊町新町 176-1 (自衛隊バス対応: 調整済)	80	磐城光陽高校
小計 (10km 圏内合計)			255	
6	ワフル双葉	双葉郡浪江町末森八合田 134 (自衛隊バス対応: 調整済)	279	柳原甲子小平 自然の家
7	ひまわり荘	双葉郡浪江町加倉今神 78	0	相双 保健所
8	小坂赤坂病院	南相馬市小高片草秩父山 24 (自衛隊バス対応: 調整済) ※ 3, 4, 5, 6 対応後移動	81名	磐城光陽高校
9	南相馬市立小 高病院	南相馬市小高東町 3-8	0	原町市立病院
合計 (20km 圏内合計)			615	

2 使用可能輸送力

	バス (国交準備)	バス (自衛隊)	ヘリ
警察	7台 (待機中)		
防衛省	21台 (調整中)	連番 3, 4, 5, 6 対応	待機中

3 20km 圏内の輸送に関して

ほとんどが、要救助者。

合計 617 名 (内訳: 615 名 (要救助者リスト) + 2 名)

使用

必要に応じて使用



双葉地域の要救助者リスト
 リストをお知らせします
 (参考)

小高あかさか病院	南相馬市小高区	患者60名 職員21名	[Redacted]	いわき光洋高校 予定
南相馬市立小高病院		患者67名 職員36名	[Redacted]	尾崎市立病院に所属する [Redacted]
西病院	浪江町榎原 下柳町-6	寝たきり 57名 職員18名	[Redacted]	いわき光洋高校 予定
法人双葉病院	大熊町新町176-1	80 100名	[Redacted]	いわき光洋高校 予定
介護施設一ヒル双葉	大熊町新町76-1 *双葉病院と300m	100 98名	[Redacted]	難付中 [Redacted]
(特老) オニフール双葉	浪江町末森八合田 134	入所者280-300 名	ういぬ班	那須町立平自然の家
(特老) ひまわり荘	浪江町大字加倉字 今神78	入所者130名		太陽の園

3/14 3-15 検査4-6 出発
 相双保健所で検査をこれから
 各施設へ搬送

報告

ERC 防災担当 ← 宮廷リユム (岡山)

御参考の情報共有。
以下、内閣府防災担当から、
リユム 各府に連絡あり。

原発の県外避難

茨城県で 15000人 全員

受け入れ OK
(知事まじり)

ただし

避難所の物資、要員は
~~手配が済んでいること~~
用意している

福島県内で洗淨 ~~は~~ 済んだこと

石井 部長
他国への避難所 (避難所) 15000
の対応を確認した。

ERC 等が何かの作業は
迅速な対応

(注: 内閣府防災)

平成 23 年 3 月 28 日
15 時 00 分

原子力災害対策本部事務局
(住民安全班)

モニタリングポスト No. 31、32、33 の地点の扱いについて (回答)

原子力安全委員会事務局
放射線班

平成 23 年 3 月 27 日 22:00 原子力災害対策本部事務局 (住民安全班) より、照会のありました標記につきましては、以下のとおり回答します。

モニタリングポスト No. 31、32、33 のポイントで、最も空間線量率の高い No. 32 のレベルは 17 日に 170 マイクロシーベルト/時を記録したが、以降一貫して当該線量率は低下傾向で、26 日 11 時 01 分現在、45 マイクロシーベルト/時と最も高かった時期の 4 分の 1 程度まで減衰している。当該ポイントの 3 月 26 日時点までの積算線量は約 15 ミリシーベルトと試算された (参考 1 参照)。

空間線量率の低下傾向を考慮すると、積算線量が避難指示の指標の下限値 (50 ミリシーベルト) を超える可能性は低いと考えられる。

なお、参考 1 の下表は仮に最も高かったレベル (17 日の 170 マイクロシーベルト/時)、20 日前後のレベル (100 マイクロシーベルト/時)、24 日前後のレベル (70 マイクロシーベルト/時) が、それぞれ今後一定に続くとした場合、50 ミリシーベルトに達するまでの日数を概算したものである。したがって、この概算値のみをもって避難の時期を判断すべきものではない。

11-03-21-13:04/001-001
12-56 原安委より 遠山様
(岩橋平一様)

甲状腺の予測される等価線量の評価と安定ヨウ素剤服用について

安定ヨウ素剤服用の要否の判断の目安となる 100 mSV (積算値) の推定については、

1. 原子力安全委員会は、

(1) 環境モニタリング (文部科学省) の結果の評価 (原子力安全委員会) と SPEED1 による試算 (原子力安全委員会) に基づく、これまでの各測定地点 (屋外) の積算線量【実施済み】

及び

(2) ベント等による今後の放射性物質の放出量 (原子力安全・保安院) を元に、気象データ (風向、風速、降雨の有無) SPEED1 によるベント等の後の各測定地点 (屋外) での積算線量の増加分の試算値 (原子力安全委員会)

を示す

(3) (1) 及び (2) の合算値を踏まえ、退避の必要性の有無について原子力災害対策本部に助言する。

2. 原子力災害対策本部は、退避の要否について決定する。

3. 原子力安全委員会は、各々の地域の住民の状況 (屋内外にいる時間、住居等の密閉性) 及び避難する場合の所要時間等に係る情報に基づき、避難完了までに 100 mSV を越える可能性がある場合は、安定ヨウ素剤服用の必要性の有無について原子力災害対策本部に助言する。

3/29 遠山理瑛より 旨 (13:30)

。本日の官外での会議には、マサキ課長が出席・対応が予定。(各課長の交代は
いまだ未定)

。このページの位置付けは不明であるものの、

1) 原安委 岩橋平一様ほかから、官外に上げられた旨が出たらしい (日時不明)

2) それへの回答がわからないが、このページでは、

避難の決定とヨウ素剤の服用のフローチャートが書いてある。

ERC サヅキ 補佐 ← 官刊レ 夏子云
(3枚) (4) 市原

(参考) 3/26 16時頃への福島県民記者会見の前、NIRS 酒井先生、NSC
が福島県民レレシテ資料下。
ポイント 32 付近の集積線量について

藤部 佐裕理
放射線班、住民安全班

平成 23 年 3 月 26 日
放射線医学総合研究所

1. 現在の状況

当該ポイント(サイトより約 30 キロメートル)は、福島第一原発から風下にあり、降雪もあった 17 日に 170 マイクロシーベルト/時を記録したが、以降、一貫して、当該線量は低下傾向で、

25 日 15 時 02 分現在 63.5 マイクロシーベルト/時

(最も高かった 17 日の 170 マイクロシーベルト/時に比べて 3 分の 1 程度)

2. 当該地点の集積線量

12 日～現在までの当該地点の集積線量は 40～44mSv

(計算概要)

文部科学省は 23 日 12 時 14 分から当該地点に簡易型線量計を設置し、集積線量の計測を開始している。25 日 14 時 29 分までの約 50 時間の集積線量は 2.829 ミリシーベルト/時である。このデータをもとに評価すると

○17 日 13:20(データ取得初日)以降 23 日までの集積線量は 20.4mSv

○17 日以前についてはデータが存在しないので、12 日 14:30 (1 号炉のベント作業:最初の放射性物質の放出と推定される時間)から 17 日まで、170 マイクロシーベルト/時あるいはそれ以上の高い線量が続いていたと仮定すると 19～23mSv

このように安全側に立った評価では、避難レベルである 50 ミリシーベルトに近づいている。このため、当該ポイントに住民が居住している場合は、避難を検討すべきレベルと考えられる。

ただし、高い線量を示しているのは当該地域周辺のみであって、現在のモニタリング結果を見る限り、30 キロ以遠の他の地域に避難エリアの拡大を図る必要はないと考えられる。

2/13

ポイント32 (約30km北西)における積算線量について

鳥取県科学省の環境モニタリング結果を基に試算

地域名	測定値 μSv/h	空間線量率から線量を求める場合(約30km北西のポイント32付近で評価)		測定日時
		次回測定までの 時間 h	評価期間(補償 に1/2ずつ割り 当てた) h	
32	88	25.7	33.4	2011/3/15 15:00
32	167	0.8	13.3	2011/3/16 11:30
32	170	1.0	0.9	2011/3/17 13:10
32	158	20.5	10.8	2011/3/17 14:00
32	140	10	10.8	2011/3/17 15:00
32	140	10	10	2011/3/18 11:33
32	150	19.8	10.4	2011/3/18 12:33
32	135	10	10.4	2011/3/18 13:32
32	138	10	10.4	2011/3/19 9:20
32	132	25.7	19.4	2011/3/19 10:20
32	110	10	13.2	2011/3/19 11:20
32	170	10	10	2011/3/20 13:03
32	108	19.1	10.1	2011/3/20 14:03
32	61	0.6	0.8	2011/3/20 15:03
32	90	24.6	12.5	2011/3/21 10:10
32	75	26.1	23.9	2011/3/21 10:40
32	75	23.1	24.1	2011/3/22 11:10
32	65	24.7	23.9	2011/3/23 12:14
32	65	30	13.3	2011/3/24 11:20
32	63.5			2011/3/25 12:00
小計				238.55
小計				23.73

屋内滞在の10時間には線量係数0.40(換気係数)を乗じた結果の値のみ併
3/15 15:30から3/25 13:31までの約10日間の線量mSvの合計 0.80
14.24

50mSvに到達す
るまでの日数

14.6
24.8
35.5

今後の予測	170	24	2.45
今後の予測	100	24	3.44
今後の予測	70	24	3.01

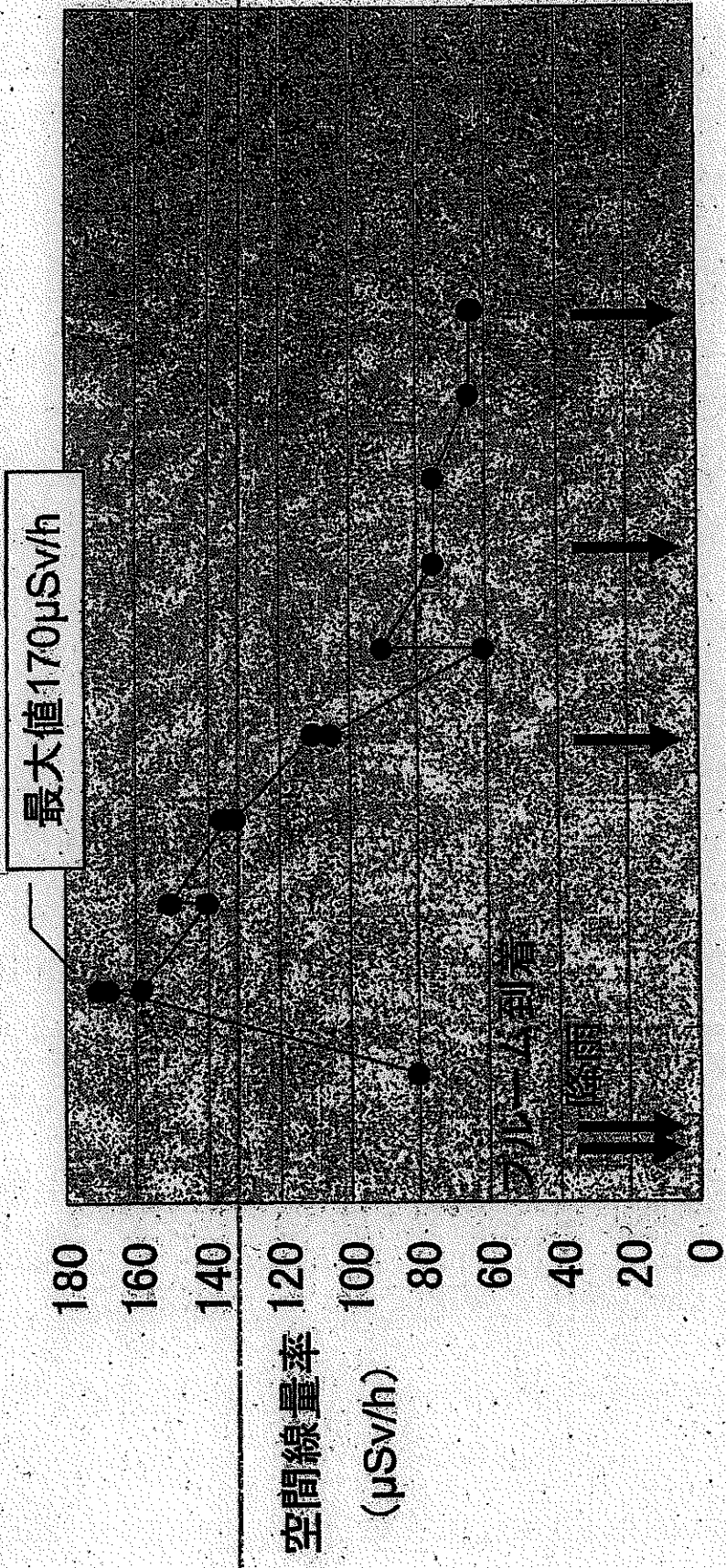
なお、SPEEDICの結果から15日以前にはブルームの到達がなかったため、
今回の評価では検出できる程度と考えられる。

*:原子力施設等の防壁対策について(付属資料B,表2)
不達率層の遮蔽係数:0.4

3

3

空間線量率の変動(約30km北西のポイント32)



3月15日 3月16日 3月17日 3月18日 3月19日 3月20日 3月21日 3月22日 3月23日 3月24日 3月25日 3月26日 3月27日 3月28日